

◎今週の御言葉「キリストの愛」(創世記4章1～10節、ヨハネの手紙第一3章9～18節) 「アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のものを持って来た。主はアベルとそのささげ物とに目を留められた。」(4:4) 「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」(3:16)

◎聖徒の日に因み、私たちの先達者達が信じてきたイエス・キリスト様のご愛を改めて教えられたいと思います。

◎創世記4章は「神にそむく人間の行為と神の支え」について3章からの続きで、主題は「アベルとカイン」です。

①アダムから生まれたカインの系譜(1-24)、②セツの系譜(25-26)に分解される。アダムとエバから、カインとアベルが生まれた。2人は成長し、兄は「大地を耕す者」、弟は「羊を飼う者」となった(1-2)。しかし、とんでもないことに、兄のカインが弟のアベルを殺してしまったのです(8)。

◎「ある時期になって」、カインは「地の作物からささげ物」をささげ、アベルは「羊の初子の中から、それも最上のもの」をささげた。カインも初物をささげているのですが、神様は「アベルとそのささげ物とに目を留められた」。カインは「激しく怒り」(5)、やがて殺意に変わったのです。5節と8節の間にどれくらいの時間の経過があったのでしょうか。神様は諭されたが(6-7)、カインは聞こうとしなかった。しかも、愛情から自分を諭す神様にも怒りを抱いたようです。

①神様がアベルを選ばれたのは「イスラエルの選び」(申命記7:6)に繋がり、「弱い者をあえて選ばれた」ことに尽きると思います(1コリント1:28)。②カインは「ひどく怒り、顔を伏せた」とありますが、正しいささげ物をしていた訳ですから、怒る必要はなかったのです。放蕩息子のように、ねたみの感情から出ているのです。③アベルを殺したカインに対して神様は、アベルの存在を確かめ、カインの「私の咎は、大きすぎて、にないきれません」との叫びに逃れる道を備えられたのです。神様の顧みを見ることが出来るのです。

◎ヨハネの手紙第一3章以下には「神の子どもとしての生活」で、①神の素晴らしい愛(1, 2)、②神の子としてのきよい生活(3-12)、③神の子としての兄弟愛(13-20)、④神の子としての祈りの特権(21-24)に分解される。

イエス・キリスト様は罪のない御方でしたが、私たちひとり一人の罪を贖うために十字架にかかり、救いの道を開かれ、神様は私たち人類を愛する故に御子イエス・キリストをこの地上にお遣わし下さり、十字架と復活による救いの御業を成就して下さったのです。主イエス様を信じ、友を愛したい。